

# 賃上げと安定雇用の拡大を

## 衆院予算委 笠井議員の基本的質疑

8日の衆院予算委員会では基本的質疑に立った日本共産党の笠井亮議員。デフレ不況打開へ積極的な賃上げを提起し、環太平洋連携協定（TPP）をめぐるでは、交渉参加の危険性を示し、参加を断念するよう迫りました。

### 笠井「内部留保活用へ本腰の要請を」

麻生副総理「賃金に回ると経済が活気づく」

### 論戦ハイライト

笠井氏は、2月8日の基本的質疑で「デフレ不況打開の力ぎは賃上げ」だとし、政府が役割を果たすよう求めたことを受けて安倍晋三首相が同月12日、経団連など財界3団体の首脳に報



質問する笠井亮議員（左）＝8日、衆院予算委

### 「月1万円の賃上げ」が可能な主な企業の例

企業名	連結内部留保 (億円)	国内従業員数 推計 (人)	必要なとり 別し率 (%)
トヨタ自動車	131,443	235,476	0.2
三井UFJ	82,911	91,008	0.1
キヤノン	37,695	70,346	0.2
武田薬品	24,090	9,530	0.05
東芝	17,753	117,105	0.8

出典:有価証券報告書から

### 勤労者の給与、非正規労働者数および大企業の内部留保の推移



出典:財務省、厚生労働省、総務省HP資料から

れた。収益が上がっている企業から賃上げ、あるいは一時金について対応していきたいという回答だった。

### 笠井「非正規の時給引き上げを」

首相「正規、非正規の関係なく(賃上げを)呼びかけたい」

笠井氏は、「個々にあっても踏み出したことはいいことだ」と述べつつ、大方は一時金の引き上げにとどまっていること、経団連の米倉弘昌会長が「景気回復が本格的になれば、給料、雇用の増大につながる」と述べたことをあげて、「事実上の賃上げゼロ回答ではないか」と指摘。

「全く光があたっていないのが非正規労働者だ」と追及しました。10年間で非正規雇用労働者は400万人増え、勤労者の平均給与年額は32万円増やして内部留保をため込んでいる実態(グラフ)を

留保は260兆円へと100兆円も増加しています。笠井氏は「これが『賃上げ社会』の大きな原因だ」と述べ、「歴代自民党政権が進めてきた労働法制の規制緩和の結果であり、反省はないのか」と追及。田村憲久厚労相は(非正規が)憲法に違反する一方、産業競争力景気が悪い時も失業率が欧米のように上がらない緩衝材だったことは確かだ」と述べ、規制緩和への無反省ぶりを示しました。笠井氏は、ローンが一時的に引き上げるものを実行すべきだ」と求めました。

党と自民党が一緒になって賃上げを、というのはたぶん歴史始まって以来ではないか。内部留保が賃金に回ると、そこから消費に回る。GDP(国内総生産)に占める個人消費の比率は極めて高い。短期的にも一時金で内部留保が賃金に回ると、それは日本の経済が活気づくために重要な要素の一つだ。笠井 内部留保のほんの一部を一時金、基本給も含めて賃上げにあてれば日本経済の好循環の突破口になる。だからこそ今、本腰で要請すべきだ。

# TPP参加は亡国への道

笠井「新規参加国は不利な条件を押し付けられる」

首相「ぼやっとしている」と答えられず

笠井氏は、安倍首相が来週にもTPP交渉への参加

表明をしようとしていることとに、JAや医師会など全国各地・各分野から怒りの声が上がっていると指摘しました。

笠井 「聖域」がなく、なるという事態になるから交渉参加に反対なのか。

首相 農業には産業という面だけではなく、環境や地域や文化や人々を守る機能を持っている。これが守られなかったら、こういうものを失ってしまっ

笠井氏は「交渉次第だ」というが、『聖域』が必ず守られると保証されるのか」と指摘。カナダ、メキシコが先行9カ国と「極秘念書」を交わし、不利な条件を承諾したとして、昨年6月に交渉参加を認められた問題を取り上げまし

にあり、遅れて交渉入りした国には拒否権は認められない」というもので

す。笠井氏がそのような交渉参加の条件があったのかと

ただすと、岸田文雄外相は「わが国には提示されていない」と答弁。笠井氏は次

のように迫りました。笠井 「守るべきものは守る」とい

首相「守るものは守る」とごまかす

笠井「ぼやっとした状態で交渉参加できるはずがない」

笠井氏は、昨年3月1日付の政府の文書で「新規交渉参加国に求める共通の条件」として、「包括的で質

の高い協定への約束」「合意済みの部分をそのまま受け入れ、議論を煮し返さな

どのような条件がついたか、新規参加の条件は明らかでない。情

報はつかんでいるのか。首相 取っている情報もあるが、輪郭がぼやっ

としていないもの、まだ判然としていないものがある。

笠井氏は、「入ってみたら大変なことだったら、それこそ責任問題になる。そんな状況で参加できるはずがない」と強調

しました。安倍首相は「交渉参加の判断を検討しているので、すぐ締結ではない」と答え

るのが精いっぱいでした。笠井 判断しない状況で参加表明などできるはずがない。やめるべきだ。

首相 参加すると判断すれば、守るべきものは守る姿勢で交渉していく。

笠井氏は、首相が野党時代、TPPについて「情報公開がほとんどない」とと政権与党を批判していたことをあげ、「この批判は安倍首相にそのまま返ってくる。拙速に結論を出さずとするやり方は許されないと強調しました。」